

## 活動から学んだ成年後見制度

活動先：NPO 法人 知多地域成年後見センター  
クラス：石川 満 先生

### 1. はじめに

私は、今回のサービスラーニングで、知多市にある NPO 法人「知多地域成年後見センター」にて活動させていただきました。

NPO 法人「知多地域成年後見センター」では、知多地域 5 市 5 町（半田市・常滑市・東海市・大府市・知多市・阿久比町・東浦町・南知多町・美浜町・武豊町）からの委託を受け、成年後見制度が必要な市民に対して相談や法人後見、家庭裁判所への申請、普及啓発活動などを行っている。この中で特に私は普及啓発活動に係わらせていただいた。

### 2. 活動内容

活動内容は、「成年後見制度・権利擁護についての掲示板作り」がメインの活動になり、他の残りの時間で「愛知県ボランティアコーディネーター養成講座」、「成年後見制度利用促進事業行政関係職員研修会」、「滋賀にある NPO 法人あさがおさんとの意見交換会」、「運営適正化委員会」など大学の講義では経験できないたくさんの生の現場を体験させていただいた。

### 3. 活動の振り返り

活動を振り返って私は、成年後見制度という制度があることくらいしか理解できていなかったもので、まず成年後見制度がどのような制度であるのかそこから学んでいく必要があった。1 年次に受講した高齢者福祉論 I の資料を読み返したり、成年後見制度に関する文献や最高裁判所の資料、日本弁護士連合会の提言書などを読み自分なりに学びを深めた。そして、自信を持って実際の現場に出てみたが、現場では事前学習で学んだ自分の知識がほとんど生かせず自分が無知であることを改めて痛感させられた。

しかし、この 6 日間の現場での活動を通じて講義や教科書、資料ではわからないことをたくさん知ることができた。

「愛知県ボランティアコーディネーター養成講座」では、情報を共有することによってネットワークが築かれることや福祉だけの切り口だけでなく様々な切り口で活動していくことが重要であることを学んだ。

「成年後見制度利用促進事業行政関係職員研修会」では、行政の方の研修会だったので内容はとても難しかったが、とても学びになった。また、この研修会を通じて、改めて成年後見という制度がとても難しい制度であると感じ、この制度の手続きが簡素化できれば、利用できる人がもっと増えるのではないかと思った。

活動のメインであった「成年後見制度・権利擁護についての掲示板作り」では、誰が見ても成年後見制度を理解できる掲示板を作ることを目標にしていたが、そのような掲示板

がなかなか作れずに苦労した。また、掲示板を見る人によってたくさんの方が見ることができるので、その点を考慮して作ることも苦労した。しかし、職員の方の助言や去年の先輩方が作製したポスターなどを見せてもらいながら作成し、自分なりに満足のいく掲示板を作成することができたと思う。

また、「NPO 法人あさがおさんとの意見交換会」では、NPO 法人の経営がとても大変で、いろいろ工夫したいと御苦労されている話など聞かせていただいた。

最終日には、「運営適正化委員会」に参加させていただいた。運営適正化委員会には、弁護士や社会福祉士をはじめとする様々な専門の職業の方がいらして、2 件の事例検討が行われた。このように、様々な専門の職種の方々と意見交換することで、知多地域成年後見センターは活発な活動ができていることを学んだ。

#### 4. 今後の課題

今回のサービ斯拉ーニングの活動で生の現場を体験させていただき、繰り返しになるが、大学の講義や教科書、資料ではわからないことを本当にたくさん学ぶことができた。そして同時に成年後見制度の問題点も浮かび上がってきた。それは、親族以外の専門職などの第三者後見人や、市民後見人や後方支援員などと呼ばれる地域における権利擁護の担い手とされる人の不足である。以下では市民後見人制度についての意見を述べる。

市民後見人制度は、もともとは後見人の受け皿不足を背景に、市民のボランティアとしての地域における社会参加をふまえて検討された制度であるが、市民後見人に関しては定義自体が未だ確立さえしていない。また、国及び地方公共団体の公的関与がない養成も多い。国及び地方公共団体は権利擁護の観点から市民後見人についての制度整備を進める公的責任があり、成年後見制度を万全にするため、公的責任と公的費用負担によって運営すべきであると考え。また早急に市民後見人に関する定義を策定すべきだと考える。

私は、このような市民後見人制度という制度があり、市民後見人になるための養成講座が全国で行われているということを通じて初めて知った。自分がこういった研修制度に参加したりすることによって、間接的な啓発活動や普及活動だけでなく、直接的にこの成年後見制度にかかわっていきたく強く感じた。

#### 5. 1年間を通じて

この1年間のサービ斯拉ーニング活動を通じて私は、本当にさまざまな経験をさせていただき、多くのことを学ばせていただいた。

サービ斯拉ーニングに配属されたばかりの4月の当初は、NPO という言葉を聞いてもどのような活動をしているのか全く想像できないでいた。しかし、5月のNPO 現場見学バスツアーに参加して、NPO がどのような活動をしているのかが次第に分かっていくようになり、NPO に対するイメージが変わった。そして、実際に夏休みの6日間現場に出させていただいたことによって、机上の学習も大切であるが、現場に出て学ぶ大切さを痛感した。

これから先、いろいろな壁にぶつかることもあると思うが、この1年間の学びを糧にして乗り越えていきたいと思う。